

D2



特許権主張	
ドイツ連邦共和国 1973年6月2日 特許第2322055.5号	
国 197 年 月 日 第 号	
国 197 年 月 日 第 号	

## 特 許 願

昭和 48 年 10 月 1 日

特許庁長官 所 署 英 雄 殿

### 1. 発明の名称

錠剤パック

### 2. 発明者

住 所 ドイツ連邦共和国ネンカレンス・アウフ・デル・シュタ  
イゲ 10

氏 名 ケオ・モーゼン (ほか1名)

### 3. 特許出願人

住 所 ドイツ連邦共和国シュグヴァーベルディングン (管地なし)

名 称 ローベント・ボツシュ・フエルパフタングスマーレン・グゼ  
ルシヤフト・ミット・ベシュレンダテル・ハフツング

代表者 ヴェルナー・ラインハルト  
同 エルンスト・クリムメル

国 籍 ドイツ連邦共和国

### 4. 代 理 人 千 100

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号  
新東京ビルディング 電話 (216) 5031-5番

氏 名 (0017) 弁護士 ローランド・ゾンテルホフ  
(ほか1名)



## 明 細 書

### 1. 発明の名称

錠剤パック

### 2. 特許請求の範囲

錠剤パックであつて、糖衣錠などの錠剤を収容する深絞りにより成形されたさら状部分を有する熱可塑性プラスチックの下側フィルムと前記さら状部分を閉鎖しかつ密封により下側フィルムと結合されたカバーフィルムとから構成されており、しかも前記カバーフィルムをつかんで下側フィルムから切り離すためのつかみみぞが前記下側フィルム内に形成されている形式のものにおいて、前記つかみみぞが前記カバーフィルムを容易につかむことが出来ないように構成されかつ被われて配置されていることを特徴とする錠剤パック。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は錠剤パック、たとえば引き裂き形式のパックであつて、糖衣錠などの錠剤を収容する深絞りにより成形されたさら状部分を有する

## ⑭ 日本国特許庁

## 公開特許公報

⑪特開昭 50-83196

⑬公開日 昭50.(1975) 7. 5

⑫特願昭 48-110419

⑩出願日 昭48.(1973) 10. 1

審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

6443 38

6443 38

### ⑫日本分類

134 B032

134 B018

### ⑬Int.Cl?

B65D 75/00

B65D 65/26

B65B 61/18

熱可塑性プラスチックの下側フィルムと前記さら状部分を閉鎖しかつ密封により下側フィルムと結合されたカバーフィルムとから構成されており、しかも前記カバーフィルムをつかんで下側フィルムから切り離すためのつかみみぞが前記下側フィルム内に形成されている形式のものに関する。

この形式の公知の錠剤パックの場合、下側フィルムの端面につかみみぞが押し込み変形されており、前記つかみみぞはそれぞれカバーフィルムによつて下方に仕切られた中空室を制限するように形成されている。この構成によりカバーフィルムは接近しやすくなりかつ離れ下方に引き離され、その結果所望の錠剤は容易に取り出すことができる。(ドイツ連邦共和国実用新案第1,927,967号明細書)錠剤のこの所望の容易な開口はしかしながら錠剤が不慮に、とくに幼児によつて容易に取り出されてしまうという欠点がある。パックがつかみみぞなしに構成されかつカバーフィルムが下側フィルムと

59

リング状に完全に密封された場合にこの形式のバックは補助手段なしに開口されえないものである。

本発明の目的はカバーフォイルをつかみかつ切り離すためのつかみみぞを有する鋭利バックであつて、たとえば幼児の手などの不慮の開口が防がれ、しかもカバーフォイルをつかみかつ切り離すことができるという公知の鋭利の利点も備えたものを提供することにある。

本発明の目的は次のことにより達成される。つまりつかみみぞがカバーフォイルを容易につかむことが出来ないように構成されかつ被われて配置されることによる。つかみみぞの形成のためにこの場合有利には単数または複数の、さら状部分を閉鎖しているカバーフォイルによつて被われたさら状のおり所が設けられている。さらに有利にはさら状のおり所はつかみみぞを仕切る切り込みなどを有している。このさら状のおり所の切り込みはバック帯状体から1つの鋭利バックを公知の形式で容易に切り離すため

次に図面に示した実施例について本発明の構成を具体的に説明する。

第1図および第2図に示すように、鋭利バックは主として下側フォイル1とこの下側フォイル1と容封により結合されたカバーフォイル2から構成されている。下側フォイル1内に深絞りによつて成形されたさら状部分3が設けられている。このさら状部分3は鋭利4の収容に用いられている。さらに下側フォイル1は4つのさら状部分3の中央にさら状のおり所5を有している。このさら状のおり所5はさら状部分3と同様にカバーフォイル2によつて被われている。さらにバックはミシン目6を有しており、このミシン目6はバック全体から1つのバックを容易に切り離すために用いられる。下側フォイル1またはカバーフォイル2に形成することが可能なこのミシン目6によりさら状のおり所5内につかみみぞ7を仕切る切り込み8が形成されている。

第3図に示すように、1つのバックがバック

特開昭50-83196(2)  
に設けられているミシン目もしくは切り目などによつて構成されている。有利にはまた鋭利バックの容封された各鋭利に被われて設置されかつ構成されたさら状のおり所がつかみみぞの形成のために設けられている。このバックはしかもつかみみぞの形成のためのさら状のおり所がそれぞれ2つまたは4つの鋭利の間の中央に設けられるように構成されているものである。

本発明のバックは幼児の手による鋭利の不慮の開口および取り出しを非常に良好に防ぐことができる。しかもこの本発明のバックは公知のバックのように容易に開口されるという利点をも兼ね備えているものである。この容易なバックの開口はしかしながら、1つのバックが別のバックまたはバック帯状体から切り離されたときに初めて可能になるものである。1つのバックが別のバックまたはバック帯状体から切り離されると、カバーフォイルはこの時初めて開放されるつかみみぞによつて容易につかまれかつ容易に下側フォイルから切り離される。

全体から切り離されると、つかみみぞ7が開放され、その結果第4図に示すようにカバーフォイル2を容易につかむことが可能になりしうては容易に下側フォイル1から切り離されうることになるのである。

第5図、第6図、第7図には本発明の別の実施例が示されている。この別の実施例においては各鋭利4に被われたつかみみぞ7がさら状のおり所5の形で配属されている。ミシン目6などはバック全体または第2の容封された鋭利4から第1の容封された鋭利4を切り離す場合、この切り離される各バックに配属されたつかみみぞ7が開放され、その結果カバーフォイル2は容易につかまれ切り離される。まだ切り離されていない容封された鋭利4はこの実施例の場合幼児に安全なようにバックされたままにある。この切り離されていないバックは中間ウェブ9を切り離した後にはじめて、カバーフォイル2をつかむことにより容易に開口されるのである。

第5図にまた一点鎖線で示されるように、鋭剤4は有利には帯状体の鋭剤としてパックされており、この場合ミシン目6の対応する配置によりそれぞれ1つのパックがパック帯状体から切り離し可能である。これと同様なパック帯状体は第1図に示されたパックにも適用される。第1図に示されたパックの実施例においても多数の鋭剤を有するパックは可能であるが、これらのパックはつねに4の倍数ごとに増すのが有利であり、その結果たとえば8パックまたは12パックが製作される、この場合4つの鋭剤4の間にそれぞれさら秋のおう所5が設けられることになる。

本発明による鋭剤パックの場合、パックが容易にはとくに不慮に幼児の手で開口されえないし、パック全体から1つのパックを切り離した後にはこの1つのパックの容易な開口が従来の形式で可能になる。さらに第5図、第6図、第7図に図示された実施例の場合まだ切り離されていない鋭剤はその後も幼児の安全のためにパ

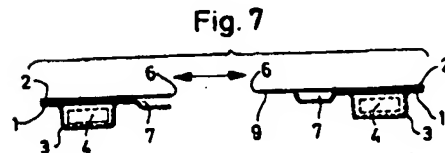
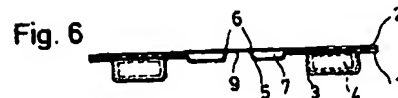
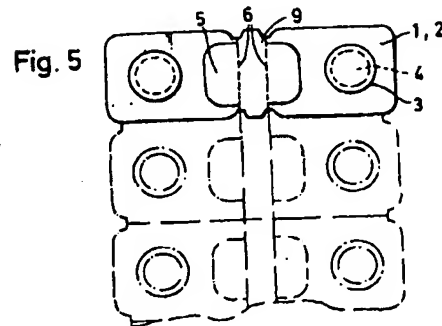
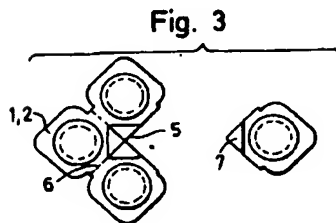
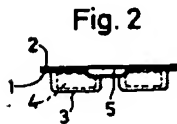
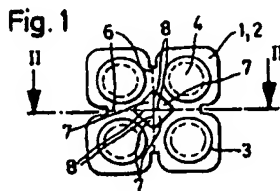
ックされているものである。

#### 4 図面の簡単な説明

図面は本発明の鋭剤パックの実施例を示すもので、第1図は本発明の1実施例の平面図、第2図は第1図の線I-Iに沿って破断された断面図、第3図は4つのパックから1つのパックを切り離した状態を示した図、第4図は切り離された1つのパックの側面図、第5図は本発明の別の実施例の略示平面図、第6図は第5図に示された本発明の別の実施例の側面図、第7図は2つのパックの一方が切り離された状態を示す断面図。

1・・・下側フオイル、2・・・カバーフオイル、3・・・さら秋部分、4・・・鋭剤、5・・・おう所、6・・・ミシン目、7・・・つかみみぞ、8・・・切り込み、9・・・中間ウェブ。

代理人 弁 士 ローランド・ゾンデルホフ  
( 係 が 1 名 )



## 5. 添附書類の目録

- |             |    |
|-------------|----|
| (1) 明細書     | 1通 |
| (2) 図面      | 1通 |
| (3) 委任状     | 1通 |
| (4) 優先権証明書  | 1通 |
| (5) 出願書主請求書 | 1通 |

## 6. 前記以外の発明者、特許出願人または代理人

## (a) 発明者

住所 ドイツ連邦共和国マートリンゲン・ノイエンシュトラーセ 8

氏名 ディーテル・リーデ

## (a) 代理人

住所 〒800 神戸市東灘区上之宮303-8

氏名 弁護士 ラインハルト・アインゼン

日付



特許出願人名義変更届

(1200円)  
特許庁官殿

昭和49年11月5日

1. 事件の表示 昭和48年特許願出 110419

2. 発明の名称

錠剤パック

3. 承継人

住所 ドイツ連邦共和国シュワフトガルト・グエスト・ブライト  
ストラーセ 10  
(913) 名 ローベルト・ゴンシュ・グゼンシャフト・ウント・ペ  
シュレンクテル・ハフツング  
代表者 ゴンシュ・グゼンシャフト・フインマーマン  
代理人 クルト・シツプス  
国籍 ドイツ連邦共和国

4. 代理人

(1) 〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号  
新東京ビルディング 電話 (310) 5031(代)

(0017) 弁護士 ローランド・ゾンデルホフ

(2) 〒800 神戸市東灘区上之宮303-8  
中小企業会館301号室

弁護士 ラインハルト・アインゼン

5. 添附書類の目録

- |                     |    |
|---------------------|----|
| (1) 承継人であることを証明する書類 | 1通 |
| (2) 委任状             | 1通 |
| (3) 出願人及び代理人資格証明書   | 1通 |

但し(2)は本日は同日付提出の特開昭49-80027-83196  
の特許出願人名義変更届に添付のものを提出する